

2018年度 年主題「イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で」



1・2歳児 9月主題 「はずむ」

月のねがい

- ◎保育者と一緒に今を感謝し、まわりの人や友だちのために祈る
- ◎いろいろなことに関心を示し、自分で試そうとする
- ◎移りゆく季節に目をとめたり、耳をすます

3・4・5歳児 9月主題 「弾む」

月のねがい

- ◎私たちの平和な日々を感謝し、神さまの望まれる平和の大切さを共に考え、祈る
- ◎これまでの遊びに加え、夏の経験からの遊びが始まり、試したり相談したりしながら友だちの関係が広がる
- ◎空・星・虫など自然の変化に興味をもち、友だちと意思を伝えながら関心を深める



子育てに豊かな時間のひと時を

夏休みの終わりに、保護者の有志の方々による「おやぢ保育」行われました。3歳以上の子どもたちが20人ほど集まり、ソーメン流しやゲームを楽しんで、しばらくの時間を過ごしました。中でも、絵本の読み聞かせは子どもたちには勿論のこと、お父さん方にも貴重な経験となったようです。

持ってきてくれた絵本は「トマトさん」(作:田中清代 福音館書店)でした。子どもたちは、お父さんが読んでくれる絵本がうれしくて、初めのうちはソワソワ、ガヤガヤしていたのですが、ページがめくれていくうちに、絵本の世界に引き込まれ始めました。読んでくださるお父さんの口からこぼれてくる言葉一つ一つを楽しみ始めました。

たいようがざらざらとてつて あつくてたまらない ころころ ぼっちゃん! とすずしそうなおと ぶくぶく ぶつくり。「ああ、つめたい。なんて気持ちいいんだろ」... (本文の抜粋)

特に今年は、子どもたちも暑い経験や、水遊びの気持ちのいい経験もしてきたこと。絵本の文と子どもたちの実体験が重なり、共感を深めながら絵本を楽しむことができたのだと思います。

ほんの少しの時間でも、心をかよわせる豊かな時間を過ごすことは、とても素敵だなと改めて知ることでした。



園長

今月の聖句 「平和をつくるものは幸いです。」 マタイ5:9

わたしは幼少のとき、日本がアメリカ・イギリス・フランス・オランダ・中国を敵に回し、戦争した時に育ちました。実に無謀な戦争でした。出征軍人はその戦場で弾薬不足・食料不足の中に無残に死んでいきました。昭和20年ともなると、日本のいたるところで空襲を受け、多くの非戦闘員が焼死または爆死しました。また、私は長崎県小浜市で原爆に会いました。大きな火の玉が空いっぱいになり逃げることの限界を知りました。幸い一命をとりとめ、今日に至っております。「わたしの命は神様から頂いた命」と感謝しています。だから、誰よりも「戦争はだめ!」「平和を作ろう!」と叫んでいます。日本は1945年、今から73年前の敗戦によって今日の平和を頂いているのです。

平和を創るには、他者と話し合い、協力しなければならないことは勿論ですが、これが難しい。他者が納得して同調してくれればの話です。同意を得られる場合は皆無です。最終的には争うか、折れるかは自分個人の決断の問題にかかってきます。自分がまず、敗ける者となる。もっと言えば、権利を主張せず、進んで損をする勇気を持つことです。自分の利益・自国の国益を優先させると平和は絶対築けません。自分が損をする、自分が傷つく、自分が殺されてもよいという覚悟さえ定まれば、戦争は起きないでしょう。「失う者はそれを得、得ようとする者はそれを失う」のです。「負けるが勝ち」ともいわれます。幼子たちに、この真理を学んでもらいたいものです。神仏に帰依し、心が平安になり、自分のうちにまず平和が築かれることが肝要です。

前理事長 池田公栄



「朝は必ず来るよ」 く凜とした生き方」

金農旋風と九回発生の台風が吹き荒れた八月でした。行楽の計画も中止や変更を余儀なくされた方もおられたのではないのでしょうか。いよいよ、パワー全開の二期です。私事で恐縮ですが、帰省中に五年ぶりの中学校の同窓会に出席することが出来ました。今回は還暦同窓会とやらで、四十五年ぶりの再会もあり、懐かしい時間を楽しみました。ただ、昔話で盛り上がるだけではないのですが、中には頼みもないのに、地位や経歴を披露し、名刺を配りまくる者もいます。頑張ってきた気持ちは分かりませんが、困惑しながら苦笑いしている周囲に気づかないのは痛々しい限りでした。そこで思い出したのが、山口で行方不明になっていた二歳の男の子を無事救出した尾島春夫さんのこと。遠路大分から駆けつけた時、自身の経験を元に、なんと三十分ほどで発見してしまつた時の人です。喜ぶ家族から食事や風呂を勧められても、キツパリと断る姿はまことに現々として感動しました。年金生活で貯蓄なし、ボランティア現場では、バックご飯とインスタントラーメン、周囲で採れた野草を食すのが彼の流儀。ボランティアはさせていただくのが本筋、座右の銘は「朝は必ず来るよ」だとか、まさに謙虚や清貧という言葉は彼のためにあるようです。方や、上級官僚という地位を利用し、あろうことか「ずる」をしてまで、息子を医学部に入学させてしまつた人もまた存在するわけです。まさに傲岸不遜。晩節を汚すという言葉が浮かびますが、それまでの高かったであろう評価も虚構であつたということでしょう。聖書に、与えられたタラントの話があります。長い旅に出る主人が三人の使用人にお金を預けました。それぞれ5タラント、3タラント、1タラントです。長い旅から主人が帰ってくるのと、三人を呼んで預けていた財産の状況を質しました。5タラント預けた使用人は2倍に増やし、3タラント預けた者も2倍に増やしましたが、1タラント預けた者は、土の中に保管して全く増やしませんでした。主人は倍に増やした二人を褒め称え、共に喜び合いましたが、全く手を付けなかった3人目の使用人は追い出されてしまいました。尾島さんは神さまから与えられたタラント(タレント)才能の語源)を、2倍どころか何十倍何百倍にも増やされた方だと確信しました。さて、土に隠していた財産は増えずともそのままでしたが、せつかく与えられていた大きな賜物をすべて失ってしまったのは誰か、言わずもがなですね。まだまだ残暑が厳しい毎日ですが、そろそろ夏の疲れも出てくる頃です。早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチで、親子共々元気でいきましょう。行事の多い二期も引き続きご協力をお願い致します。

学 園 長

「朝は必ず来るよ」 く凜とした生き方」

心と体に優しい生き方 方法①ハーブ療法

～私は私が食べたものでできている～

ハーブは人の生活に役立つ植物のことで、「香草」「薬草」と訳されます。人の体にもともと備わっている自然治癒力を高めることが知られ、私たちの身体全体に作用するため、健康維持や健康増進に活用されています。自然治癒力とは私たちが生まれながらにして持っている心身の病気や怪我を治す力のこと。ハーブの利用することで、心も含めて私たちの身体全体のバランスを維持してくれます。

漢方では医を上・中・下に分け「上医は未だ病まざるものの病を治し、中医は病まんとするものの病を治し、下医はすでに病みたる病を治す」としています。自然治癒力を高め、病を予防できるという意味ではハーブは上医とも言えるでしょう。



ハーブは料理やハーブティ、香り(アロマ・ポプリ・お香)など様々な用途で楽しむことができます。「ペパーミント」は夏の入浴剤にも最適で、お風呂に浮かべるとヒンヤリした清涼感とすっきりした香りが心と身体をリフレッシュさせてくれます。夏バテした胃腸には「レモングラス」のハーブティもお勧めです。レモンのような優しい香りと味の良さに加え、栄養の消化吸収を高める役割もしてくれます。午後～夜にかけては癒しのハーブ「ベルベータ」とミックスすると心にも優しく作用します。心の癒しには「パッションフラワー」や「リンデン(西洋菩提樹)」もお勧めです。秋にかけては、日照時間が短くなるため体内リズムが崩れやすくなるので「セントジョーンズワート」を摂っておくと、恒常性を保ちやすくなります。等々…ハーブは私たちの“味覚”“嗅覚”“触覚”を満たし、心と体全体に作用して、自分を取り戻す手助けをしてくれます。興味のある方は一緒に体験したいですね。

心理士 木口屋恵子